

2013 年度・第 1 回 東日本地域部会

阿部隆（日本女子大）

2013 年度・第 1 回 東日本地域部会は、2013 年 10 月 26 日の 10 時から 17 時まで、仙台市青葉区の東北学院大学土樋キャンパスを会場として開催された。午前中は、「東北地方の将来人口」というタイトルで、東北地理学会と共催のかたちで、公開シンポジウムが行われ、午後は一般報告が行われた。午前中の公開シンポジウムには、日本人口学会会員が報告者 4 名も含めて 13 名、東北地理学会会員が 8 名、報道関係者が 6 名（朝日新聞、河北新報、岩手日報、日本時事通信）に加えて、地方自治体から 4 名（山形県、福島市、宇都宮市、宮城県七ヶ浜町）、一般参加者 9 名の参加があり、合計 40 名の参加を得て、4 件の報告と活発な討議が交わされた。質疑は、東北地方の将来人口に対する東日本大震災の影響が、短期的なものとなるのか、長期間に及ぶものであるのか、という点を中心に交わされた。人口と災害との関係に関する研究の交流が深まるとともに、報道機関からの取材もあり、学会活動を広く啓蒙するという意味でも有意義なシンポジウムであった。午後の一般報告は、日本人口学会会員 11 名、東北地理学会会員などその他 5 名の参加を得て、4 件の報告が行われた。高齢化問題や居住地選択ならびに民族意識に関して活発な質疑が交わされ、大変有意義な会合であった。今回の部会の開催にあたっては、東北地理学会ならびに開催校の高野岳彦教授に大変にお世話になった。この場を借りて、深甚の謝意を表する次第である。

司会者・報告者及び報告タイトルは以下の通りである。

一般公開シンポジウム

コーディネーター：阿部隆（日本女子大）、司会：磯田弦（東北大）

報告

- (1) 飯坂正弘（中央農業総合研究センター）：「仮設住宅生活における問題点と被災自治体の将来人口」
- (2) 小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）：「『日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）』の概要－(1)－人口推計の枠組みと手法について」
- (3) 山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）：「『日本の地位別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）』の概要－(2)－東北地方を中心とする結果について」

- (4) 山口泰史（フィデア総合研究所）：「国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来人口推計結果に対する考え方ー東日本大震災を踏まえてー」

一般報告

司会：阿部隆（日本女子大）

- (1) 丸山洋平（慶応大）：「孤立的高齢者世帯の地域分布」
(2) 清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）：「大都市圏居住者のライフステージ別居住地」

司会：原俊彦（札幌市立大）

- (3) 鈴木透（国立社会保障・人口問題研究所）：「人口高齢化の線形モデル」
(4) 小島宏（早稲田大）：「ムスリム人口に対する意識の関連要因ー日欧の比較分析」